放送大学通信 オン・エア 発行月 2012年6月 発 行 放送大学

1	Def.	

THE RESERVE OF THE PERSON NAMED IN COLUMN TWO IS NOT THE PERSON NAMED IN COLUMN TWO IS NAMED IN COLUMN TW	
CONTENTS	H
学位記授与式	1
コ <mark>ース</mark> 別座談会	- 5
研究室だより	. 9
第4回エッセイコンテスト	. 10
2012年度開設改訂科目紹介	- 12
学習センターだより	16
就任のごあいさつ	18
情報コース·情報学プログラムについて······	19
/>/¬/->/->/->/	00

学位記授与式が行われました

2012年3月24日、2011年度学位記授与式が、NHKホールにおいて挙行されました。今年度は、2011年度 学部卒業生と大学院修了生に加え、東日本大震災により式が中止となった2010年度の卒業生・修了生を 含め、大勢の方々が出席いたしました。

開会の辞に続いて、国歌演奏、学位記授与、学長式辞、平野文部科学大臣からの祝辞、総務省稲田大臣官房 審議官並びに小野放送大学同窓会連合会会長からの祝辞があり、続いて卒業生・修了生総代から謝辞が述 べられました。また学長表彰として、すべての専攻、またはコースを卒業した学生には「放送大学名誉学生」と して表彰が行われ、岡部学長指揮による学歌斉唱で閉式となりました。

学長式辞 学長 岡部 洋一

本日、めでたく卒業を迎えられた卒業生・修了生 の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本学の教 職員を代表して、心からお喜び申し上げます。また、 皆さんをずっと支えてこられたご家族、友人の方々 も多数お見えかと存じます。さらに、昨年度は突然 の東日本大震災のため、学位記授与式を中止いたし ましたが、このため、昨年度の卒業生・修了生の方 にもお声をおかけしました。どうか、皆さん全員で 卒業の喜びを分かち合っていただきたいと思います。

また、本日は、文部科学大臣を始め、多数の来賓 の方々をお迎えし、かくも盛大な学位授与式を挙行 できましたことを感謝致しております。誠にこの上 ない喜びであります。

今年度はいろいろな意味で放送大学の節目となる 年でした。まず、放送大学の経営母体である放送大 学学園の創立30周年です。放送大学学園は1981年 7月に設立され、この2年後の1983年4月に放送大



学が設置され、さらにその2年後の1985年4月より 放送授業が開始されました。この30年目という重要 な年に、7月にアナログ放送が終了したことにより、 地デジへの関心が一気に進みました。このことによ り、関東地区では、地デジ12chに割り当てられて いた放送大学が、大変良く知られることになりまし た。これに加え、10月にはBSデジタル放送も開始 し、放送大学は全国的にもよく知られるようになり ました。今迄、一般の方には存在すらよくわからな かった放送大学が一挙に見えるようになったのです。 また、この数年、インターネットや携帯端末の一層









の利用が拡大しましたが、本大学も2007年度から ラジオ、2008年度からテレビ科目のネット配信を 始め、またかつて郵送でしかできなかった入学出願、 科目登録、通信指導問題の解答提出、授業に関する 質問などもインターネットでもできるようにしました。

放送大学はいつでもどこでも学べる大学として設置され、北は北海道、南は沖縄まで、学生さんの居住地は広く広がっております。このため、全国各都道府県に学習センターを設置し、そこで教員から直接対面で面接授業などの指導を受けたり、期末の単位認定試験を受けられるようになっています。さらに、そこでは教職員の相談を受けることもできますし、学生さん同士の交流や助け合いの場にもなっています。しかし、こうした分散したキャンパスがあってもなお、遠隔教育大学の宿命として、多くの学生さんは、大部分の時間を孤独と戦いながら学習を続けてこられたことと拝察しております。

東日本大震災では、残念なことに本学の学生さん の中にも亡くなられた方もいらっしゃいます。また、 近親者を亡くされた方、ご自宅が流出、全壊、半壊 となられた方、あるいは、そうした地域に居住され ている方がたくさんいらっしゃいます。

しかし、そうした状況でも、なお学習を続けられている方が何人もいらっしゃいます。災害には遭われなかった方も、本学の学生さんの多くは、仕事を持ちながら就学をされている方、家事との両立をされている方、障がいを持たれている方もたくさんいらっしゃいます。こうした、大変な環境にも関わらず勉学を続けてこられ、さらに卒業にまでいたられたことから、ぜひ「自分を褒めてやっていただきたい」と思います。これが最初に申し上げたいことです。

学部は最短で4年、大学院は2年で卒業できますが、こうした難しい勉学環境から10年、あるいは再入学して20年とかけて卒業にたどり着かれた方も多いと思います。この精神力や持久力には、我々教員も頭

を下げざるを得ないと感じております。さらに、本学には人文、社会、自然科学などといった5から6コースがあります。何と、これらのすべてのコースを終えられた方もたくさんいらっしゃいます。

こうした方は学内では尊敬を込めてグランドスラマーと呼んでおります。のちほど学生表彰という形で顕彰させていただきますが、今回は40~85歳の方々が19名もいらっしゃいます。

次に申し上げたいことは、皆さんにはぜひ「本学の卒業生・修了生であることに、誇りを持っていただきたい」ということです。本学は、学力試験を課さない誰にでも開かれた稀有な大学でもあります。だから周りもレベルが低いと思っていますし、皆さんの中にもそう思われている方が多いかと思います。

通信制大学だからと頭ごなしに信じておられる方 も多いと思います。本当にそうでしょうか。

まず、放送授業を受け持たれている専任教員や客 員教員は、著名な方が多く、さらに、各学習センタ ーで面接授業を受け持たれている先生方も、それぞ れの地域の著名人であり、高い教育の質を保ってお ります。しかも、放送授業の単位認定試験はきわめ て厳格です。普段から直接顔を合わせることがない だけに、情状酌量はありません。よく、放送大学の 授業や試験はやさしいという学生さんがいらっしゃ います。しかし、こうした学生さんの大部分は、す でに他の大学でその専攻を修了されていらっしゃる 方が多く、二度目の授業がやさしいのは当然です。

初学者にとって、かなり難しい授業を行っている ことは、私のように他大学から移動してきた教員か らは容易にわかります。

また、他の大学では、有名人となった卒業生をたび たび紹介しています。しかし、本学では、そもそも仕 事を持ってから学生さんになる方が多いこと、卒業し てすぐに就職する人が少いこともあり、有名人となっ た卒業生をあまり充分に利用しておりません。ですが、 OB、OGの中には、たくさんの有名人がいらっしゃいますし、さらに前述のようにどちらかというと恵まれない勉学環境を自分で切り開いてこられたのです。ぜひ、こうした実態を認識した上で、放送大学の卒業生・修了生であることを、胸を張って外部に言っていただきたいと思います。それが、また、放送大学の実態の能力を外部に知らしめることになると信じております。改めて「本学の卒業生・修了生であることに、誇りを持っていただきたい」。

続いて申し上げたいことは「いろいろな局面で勉学を生かしていただきたい」ということです。勉学が直接的に生きる場合もあるでしょうが、ほとんどがよくわからないところで生きてきます。たとえば筋トレが、ほかの運動の成果になって現われてくるようなものです。でも、そうした効果を認識することが大事だと思います。それが「学ぶ姿勢の維持」につながります。私の大学時代の恩師がよくおっ

しゃっていたのですが、「自分がどこまでをわかったのか、どこから先がわかっていないのかを認識すること」、そしてその限界を徐々に拡げていくことが肝要かと思います。

今、日本はいろいろな局面で、大変な難局に面しております。莫大な財政赤字、原発事故に起因したエネルギー問題、少子高齢化と年金問題、長期的な産業空洞化など、どれを見ても、一朝一夕では解決しません。

皆さんに期待するのは、こうした時に、感情で動 くのではなく、より論理的に正しい道を見つけ、そ れをきちんと歩いていくことだと思います。

本学に在籍したことにより、力強く生きるすべ、 したたかに生きるすべを得たのだ、それを力に他人 に優しい、包容力のある人間になっていただきたい と念じて式辞とさせていただきます。

謝辞

教養学部卒業生代表 髙橋 昭善自然の理解専攻 髙橋

本日は我々卒業生のために、このような厳粛かつ盛大な 式典を挙行していただき、誠にありがとうございます。学長はじ め、先生方および関係職員の方々に厚くお礼申し上げます。 また、ご来賓のみなさま方には、ご多用中にもかかわらず、 ご臨席を賜り、その上、温かいお言葉をいただき、卒業生を

私は神奈川学習センターに所属しておりますが、昨年の5月末に青森学習センターによる白神山地の生態系を学ぶ面接授業に参加いたしました。その折、東日本大震災による津波に遭われた石巻の仲間、放射能に苦しむ郡山の仲間と、共に過ごしました。その後、お便りもいただきました。

代表して心よりお礼申し上げます。

石巻の仲間からは、「このはがきは、津波をくぐり抜けてきたものです。」とあり、郡山の仲間からは、「私達のサークルは、線量計を持参して登山をしました。あきらめとやり場のない怒りでいっぱいです。」とありました。同じ学習をともにする仲間の一人として、胸が締め付けられる思いがいたしました。同時に放送大学を心の支えとし、仲間とともに前へ歩もうとする強い気持が読み取れるのです。お互い離れていても、放送大学生であることの一言で、気持が通じ会う仲間たちです。

ふりかえって私自身です。学籍番号は、87から始まりま

す。ということは、すでに放送大学で学び始めて25年、ということになります。当初の私は仕事を抱え、科目履修生として、仕事の帰りの平日の夜、8時過ぎまで開かれていた面接授業に出席しておりました。



放送授業では、興味を有していた自然系の科目、特に基礎生物学やゲノム生物学、専門科目の細胞生物学などの科目を選択し、今日では日常用語になっている遺伝子操作の言葉など、耳新しい内容を好んで学習しておりました。

実験を伴う面接授業では、現在開講されていますが、核酸のDNA・RNAの抽出、そして、PCR法による増幅の実験は、細かい操作の繰り返しを通して、遺伝子の存在のほどが電気泳動場面に映し出されるという先端的学習であり、大変興味深いものでした。

また、印象に残っている面接授業としては、母性健康科学があります。淡々と進む授業の中で、1本のビデオが流されました。

やわらかなナレーターの解説を耳にしつつ、1つの生命 誕生までのいきさつを時間、空間という流れの中で、科学と いう客観的事実に基づいて画像が流されました。

当初、多少ざわつきぎみであった若い女性の学生たちは、 流れる映像を目の当たりにして、息すら止めての聴き入り

方に変わりました。

やがて場面が静かに終了したとき、しばし教室内は静寂さの中にありました。うっすらと目に涙さえ浮かべている学生もおりました。おそらくは未来の看護師さんたちではなかったでしょうか。今でもこの場面を思い出しながら、そのときの学生の何人かは、今このとき、現場で命と向き合う仕事に立ち向かっているのではないかと推察いたします。

こうした学習を経て、私は昨年の春から、主題「相模湾ホンダワラ科藻類誌―その分布と形態―」の卒業研究に

臨みました。研究指導教授、松本忠夫先生からは、先を見通した的確なご教示をいただきました。8月から9月にかけては、査読的ご指導をいただき、12月半ばのプレゼンテーションを経て本日ここに至った次第です。

ここにたどり着くまでには、家族の協力や、多くの仲間に よる支えがあってのことです。

何よりも健康であったこと。それは自分自身へのささやかな褒めことばでもあります。

対辞 大学院修了生代表 安達 美帆子 人間発達科学プログラム 安達 美帆子

本日は、私どものために、このような盛大な学位記授与 式を挙行していただきまして、厚く感謝申し上げます。また、 学長先生やご来賓の皆様から感銘深いご祝辞を賜り、心 より御礼申し上げます。

私どもが大学院修了生として今日のこの日を迎えることができましたのは、これまで導いて下さいました先生方、様々なサポートをして下さいました職員の方々、また、切磋琢磨しながら学生としての時間を共有してきた仲間や友人たち、支えてくれた家族など、様々な方々のお蔭と深く感謝申し上げます。

私は結婚後、夫の転勤で2度の海外生活を送り、「帰国 生」と呼ばれる二人の子ども達、海外と日本の文化の差異 に直面して戸惑う子ども達を育ててまいりました。15年ほど 前からは同じように海外生活を体験した家族によるボラン ティアグループに加わり、帰国家族のサポートを行なったり、 海外での生活について学校で話をするという活動も行なっ たりしてまいりました。また、そのボランティアグループで「帰 国子女プロジェクト」として帰国生とその保護者に質問紙 調査を行ない、計830人から回答をいただいて、報告書の 作成・発行もいたしました。そのような中で、たくさんの帰国 生とその保護者、海外体験のある先生方との出会いがあ り、せっかく実施した質問紙調査の結果をもっと深く読み込 みたい、帰国生の適応について学問的に知りたいという思 いが強くなり、大学院での勉強を考えるようになりました。 研究テーマは、学校における帰国生の受け入れについて、 学校が帰国生をどのように受け入れることが大切かという ことに焦点を当てて研究しようと定めました。

ただ、そうは言いましても、かつて学んだ大学の専攻とは 分野が違い、その上卒業してから長い年数が経っておりま したので、果たして大学院の授業についていけるのかとい う不安もありました。そこで、まず放送大学の学部で選科履修生として 1年間教育関係の科目を学び、次の年からは大学院の修士選科生と して学んだ後に、修士全科生として 入学いたしました。



大学院での学びは、学ぶ時間を作り出す大変さはありましたが、本当に実りある楽しいものでした。これまで知らなかったことを知る楽しさ。様々な文献との出会い。それまで何となく経験から考えていたことが学問的に裏打ちされてはっきりと見えてくることの喜び。また、2か月に一度の研究指導ゼミでは住田正樹先生に温かなご指導をいただき、共に学ぶゼミの皆さんにもたくさんの刺激と新しい視点からのご指摘をいただいて、ともすれば様々な資料の中で溺れそうになるのを方向付けていただきました。論文のための面接調査では、帰国生とその保護者だけではなく、受け入れる教員や帰国生を取りまく一般生や一般生の保護者などいろいろな方のお話を伺うことができ、より深く帰国生の適応について考えることができるようになりました。

大学院での学びは、私が帰国生へのボランティアを続けていくうえでの大きな宝となりました。これからは、この宝を活かすと共に、出来る限り学び続けていきたいと思っております。昨年3月には未曽有の災害が起き、この1年は、このような中でも学び続けることの意味は何かと自分に問い続けた1年でもありました。その答えはすぐに出てくるものではありませんが、学ぼうとする意欲と学んだ知識は必ずや人生の力となり、自分の周囲でそれを活かしていくことがこれからの日本に役立っていくことでもあると、信じております。そのためにも、さらに学び続け努力していきたいと思っております。

最後になりましたが、放送大学の更なるご発展と、ご臨席の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げて、修了生を代表しての謝辞とさせていただきます。

健康への力、 生きる力を育む

WHO(世界保健機関)は21世紀の健康戦略として掲げた ヘルスプロモーションを「人々が自らの健康をコントロールし、 改善することができるようにするプロセス」と定義しており、 「健康への力、生きる力」の重要性を指摘しています。そこで 今回のコース別座談会では、生活と福祉コースで健康領域 を専門とされている4人の先生方にお集まりいただき、「健 康への力、生きる力を育む」というテーマについてお話いた だきました。※本文中は敬称略とさせていただきました。

対象によって異なる 健康への力、生きる力



井上 本日はお忙しい中、ありがとうございます。 「健康への力、生きる力」を培っていくことは専門 職としても一市民としてもとても大切で、その中身 について考えてみたいと思います。まず簡単に自己 紹介から。私は、成人看護学と健康社会学を専門領 域としており、中でもHIV陽性者の生活の質と支援 のあり方をテーマに研究や教育に携わっています。

井出 専門は老年看護学。もの忘れの問題――記憶に 関して本人がどう感じ、それが健康にどう影響する のか、といった研究から派生して、認知症の問題— 認知症の人を地域でどうサポートするか、認知症に なっても安心して暮らせる「まちづくり」をどう進 めるか、といったテーマで研究・活動をしています。

石丸 私は精神科医として臨床を続けながら、統合 失調症のメカニズムなどについて研究してきました。



石丸 昌彦教授

ます。 戸ヶ里 専門は基礎看護学

と保健医療社会学。今研究 しているのは、健康生成論

最近は、精神医学の歴史や

治療論について勉強してい



井上洋士教授(慢性看護学、保健社会学)

石丸 昌彦教授(精神医学)

井出 訓教授(老年看護学)

戸ケ里泰典准教授(基礎看護学、保健医療社会学)



(Salutogenesis) —健康がどのように作られるのか という理論モデルである健康生成モデルについてと、 ヘルス・リテラシー (Health Literacy) についてです。 井上 今回のテーマ「健康への力、生きる力を育 む」について、日々の研究や実践活動を通じて感じ られることがおありかと思います。私の場合、HIV 陽性者の支援をしていた時に、治療薬の進歩ととも に薬剤耐性の問題—95%以上服用しないと薬が効か ない、という問題が常に同時並行してありました。 ですから、患者さんにはきちんと薬を服用していた だきたい、という思いが強くある一方で、外来中心 でしたのでちゃんと服用されているか確認できない、 というジレンマがありました。どうしようか、と思 い悩んだ末に、この患者さんは何か条件を整えてあ げれば薬を飲むようになる、飲めるようになる力を 育てるんだ、と考えがシフトしてだいぶ気持ちが楽 になったという記憶があります。この経験以来、行 動そのものから、行動がどのように出てくるか、と いうプロセスに焦点を当てるようになり、その後の 研究や教育の場で強く意識するようになりました。

井出 その行動変容について、私の対象である高齢 者の場合は少し捉え方が違います。と言うのも、成 人や小児は病院での医療を受けて、「健康に生きて



井出 訓教授

いく | ことをしっかりと身に つけて社会に帰っていきます。 ですが、ある時、退院の決 まったおじいさんに「良かっ たね」と声をかけると、「帰っ ても何も楽しいことはない」 と言うのです。そんな場面に

出くわす度に、高齢者の「健康への力、生きる 力」って何だろうと考えています。もの忘れ予防の 教育などを行うと、「このクラスに来てよかった| 「生きていく力が湧きました」といって社会に戻っ て行かれる。でも、実はその先まではフォローしき れていない。若い人なら社会に戻って元気に生きて いけるが、高齢者の場合、社会の受け皿が整ってい ないためにそうはならないケースが多い。「健康」と か「生きる力」というのは若い人と同じ土台で考えて はいけない、もっと広い視野から見なくてはいけない と考えるようになり、それが私の中では「まちづく り」につながっています。

石丸 「老い」は人生最後の段階ですね。残りの時 間を過ごして去って行く訳ですが、単に去るだけで はない。何かを残して、何かを伝えて、場所を次代 に譲る…そうすることで永遠の中に自分を位置づけ る。そのような展望を持つことができるかできない かで、「健康への力、生きる力」というものはだい ぶ違ってきます。そういう時系列的な受け皿も必要 だと思います。

井出 おっしゃる通りです。「まちづくり」は空間 的なものを用意すれば足りるというものではありま せん。かつて地域には老いも若きも共に住み、「老 い」を将来を生きていく人たちのつながりの中へ流 し込むことができました。今は、その時系列が分断 されつながっていません。亡くなる場所も8割が病 院です。つまり死に向き合う状況が自分たちの目の 前から病院に取り上げられ、「老い」の先に死があ るという当たり前のことが隠されてしまった。そう いう意味ではDeath Education (人間らしい死を迎 えるための教育) やAgeing Education (老いの教 育)といったものが必要とされているのかもしれま せん。「まちづくり」にはそういった時系列的な受 け皿も重要だと考えています。

石丸 そのお話で思い出しました。「患者さんの悩 みを聞き続けていて、自分の方が疲れないか」とよ く訊かれますが、私はあまりピンと来ません。患者 さんは悩みだけではなく、健康になりたい、快復し たい、という強い熱意も持ってこられます。特に外 来診療の場合は、そうですね。加えて精神科という のは、あまり行きたいところではありません。家族 にバツの悪い思いをしながら、或いは隠して、いろ んな不安や相当な心理的負担を乗り越えて、自分を 精神科医の前まで運んできます。つまり受診するこ と自体が大変な作業で、それだけの仕事を成し遂げ たからにはそれに見合うだけのものは持って帰りた い、絶対よくなるんだという強い思いも一緒に運ん できているのです。その良くなりたいという力、生 きていく力というものを増幅して患者さんにお返し する、そういうカタチで診察や面接は進みますから 思いのほか疲れません。これはカウンセラーの方で も看護師の方でも原理は同じです。「患者」は「患 う者」と書くのでネガティブな面が強調されますが、 反面「良くなりたいと努力している人たち」です。 この方々から学ぶところは大きいと感じています。

井上 よく分かります。私も口にこそ出しませんが 「よくぞ来てくれた」の思いで患者さんに接してお りました。今までのお話から、高齢者と成人、精神 疾患の方と対象によって「健康への力、生きる力」 は少しずつ質が違うのかなという気はします。

ヘルス・リテラシーと 首尾一貫感覚



井出 高齢者の介護予防教育などを開くと、来てほし い人がなかなか参加してくれません。結果、要介護に なってしまう。でも、先ほどの薬を飲む飲まないも、 病院に行く行かないもご本人の選択です。では薬を 飲まず病院に行かないのは生きることを諦めたのか、 と言うとそうじゃない。つまり、生きたいが「生きる 力 | を萎ませている、ないしは萎ませられているとい うことなのだと。そこに医療や看護がどのように関 わることができるのか、考えさせられます。

戸ヶ里 その選択について、ヘルス・リテラシーと いう考え方を加えたいと思います。WHOでは「健 康を維持促進するために情報にうまくアクセスして 理解して活用する能力 | と定義されるものですが、 測定の尺度として機能的リテラシー、相互作用的リ テラシー、批判的リテラシーの3つがあります。

「機能的~」は、例えば薬局の処方箋を理解する読 解力、「相互作用的~」は自分から情報を探す収集・ 整理能力、「批判的~」は情報を鵜呑みにせず、例 えば医師の診断に「いや私はこういう症状だから」 とコミュニケーションを図る能力。機能的、相互作 用的、批判的、と段階を踏んで身につけることも 「健康への力、生きる力」を高めると思います。

石丸 井出先生のお話は少し耳が痛いですね。精神 科でも本当に来てほしい重症の人はなかなか来ない。 来たくとも来られないわけです。そうした人々を見 ないで、比較的健康度の高い人だけを相手にして 「力」を頂いているなんて言っててよいのか、と。 そもそもなぜ精神科医は往診しないのか、と素朴に 問われて答えに窮しそうです。

井上 患者さんにどこまでどう関わるべきか、は悩 ましい問題ですね。「消極的自殺」という言葉があ りますが、あえて薬を飲まない、あえてセイファー セックスをしない、という方が結構いらっしゃる。 特に20~30代に。では最終的に「死」を選択してい るかと言うとそうでもない。その境界線ぎりぎりの 所—Addiction(嗜癖、依存)を選択している。ア ディクション看護学という領域もありますが、看護 や医療だけで完結することはなく、さまざまな資源 を駆使して支援しているという状態です。



戸ヶ里 泰典准教授

戸ヶ里 健康生成モデルの中 核をなす概念「首尾一貫感 覚」(Sence of Coherence) が 「健康への力、生きる力」に 近いかと思います。ユダヤ系 米国人のA・アントノフス キー博士が、強制収容所から

帰還した女性にインタビューして提唱した概念です が、非常に過酷な経験をしたにも拘わらず健康を維 持している人々がいた。彼女たちに共通して見られ た生活や人生への見方や考え方に関する感覚が「首 尾一貫感覚しです。簡単に言うと、自分の生活・人 生が安定しているように見えて、だれか何かに守ら れていて何かあっても何とかなると思え、世間や人 生は何事も重要で面白いと思える、といった感覚で す。その感覚は、良好な人生経験を経ることを通じ て培われるといわれていますが、私は、強いストレ スを抱えながらもその感覚があれば健康でいられる のか、といった研究をしています。

「健康に死ぬ」ということ



石丸 その感覚…私は、大きな世界の中に自分が正 しく一貫して位置づけられている感覚、と解釈しま したが、先ほどの時系列の話にも通じます。

井出 そう考えると、「健康への力、生きる力」と いうのは自己存在を確かめる作業とも言えますね。 健康生成論に接して思ったのは、健康が冒されて 「死」に至る、つまり「死」は健康の敗北である、 とされていたがそうじゃない。「人間は健康のまま 死んでいける | ― そういうことなんだな、と。

井上 よく分かります。癌の 末期で身体はボロボロだが、 人生を謳歌して成就して生を 閉じられている。疾病があっ て、健康があって、どちらか に偏って死んでいくのではな い、両方のバランスの中にそ



井上 洋士教授

の人なりの「健康な死に方」があるような気がします。 **戸ヶ里** 健康とは何か、は難しいテーマです。医 学・生理学的には病気であっても、イキイキされて いる方もおられる。病気でも健康である、という考 え方があってもいいと思います。

石丸 「体は病んでいても、心は健やかである」、 つまり「健やかな心」をよりどころとして、体の疾 患と闘うということがありますね。ところが、精神 疾患の場合は少し事情が違う。重症になると、思考 や判断のシステム自体が動揺してしまいしますから、 「健やかな心」をよりどころにするという図式が成 立し難いのです。それでも私たちは、患者さんの内 側に「何とかこの状態から助け出してほしい」とい う願いがあると考えなければ、治療・援助を行うこ とができません。これはこちらの思いだけではなく、 患者さんの言葉や行動から実感されることでもあり ます。どんな人の中にも、健やかに生き続けていく ことを願う核のようなものがある、それをよりどこ

ろにして診療するのだと思います。

井出 認知症の人は訳の分からない行動に出たりするとよく言われます。わたしたちは、目に見える外見的なものだけでその人を捉えがちなのです。ですが、私は私としてある、といった、その人の内奥に傷つかずにある存在、というものは確かにあるのだと思います。それをSpirituality(霊性)と呼ぶかどうかは意見の分かれるところだと思いますが…。

「健康への力」を高める 資源の活用



戸ヶ里 人は日々生きている中で、認知症だったり精神疾患だったり、病気を抱えること自体もそうですが、何かしらの壁にぶちあたる。その際に有益な情報や、知恵、手段にかかわるさまざまな資源を提供したりして手をさしのべるのが医療従事者の役割ですが、その「何ものか」やSpiritualityはその人の心の内側にもつ資源とも言えます。その資源を引き出すことも大切です。

井上 「首尾一貫感覚 | で私が魅力的だと思うのは、 「資源はどんどん利用していい」という考え方です。 どんな資源があるかを知り、頼るときには頼りなさ い、と。そんな考え方を社会で広く認め合うことは 「健康への力」を高めます。HIV陽性者の場合、差 別や偏見のために一人で抱え込んで潰れてしまう ケースが多いのですが、ネットでもいい、誰かとつ ながることで孤立を防ぐことは大切です。HIV専門 職からも、ここにいるよ、必要な時には思い出して、 と発信し続けることが大事です。これは「まちづく り」にも通じると思います。ところで、HIVは90年 代前半までは死ぬ病でした。だから、どう死を迎え るかを常に考えていた。支援する側もSpiritualityに 近い領域を模索していた。ところが、90年代半ばに とても効く薬が出た。すると、死の準備をしていた 人がこれからどう生きて行くかに急転回させられた。 支援する私たちも戸惑いました。

井出 似たような状況は高齢化の中にもあります。 高齢者化率が7%から倍の14%になるまでにフラン スやスウェーデンでは約100年ほどかかりましたが、 日本ではわずか24年。社会の状況がこの急展開に追 いつけなかった。確かに資源の多様化と活用は「ま ちづくり」に必要ですが、「老い」に対しての資源 が十分に用意されていないとすれば、高齢者に無力 感を抱かせないような社会のあり方をめざす工夫も 必要です。

井上 さて、そろそろ時間です。続きは私たちの担当する科目を受講していただくということで、最後に簡単に科目紹介を。私が主任講師を務める『成人看護学』は看護師志望の方向けのものですが、成人への看護援助、成人の健康への理解を深めており一般の方にも内容の濃いものです。基礎科目『健康と社会』はまさに本日のテーマに沿っており、主体者として健康や病気に積極的に関わる力を育み、加えて社会との関わりについて理解を深めています。

井出 今後、老年看護にかかわる科目を担当する予定です。看護師志望の方対象ですが、加齢に伴う身体変化とケアのあり方、認知症への理解と取り組みといった現実的な内容を多く含み、一般の方や高齢者と同居されている方にも興味深いものだと思います。

石丸 昨年度から専門科目『今日のメンタルヘルス』を担当し、3,000人を超える方に受講いただいています。『精神医学特論』は大学院科目ですが、専門的な医学知識がなくても理解できるよう工夫してありますので、一度聴いてみてください。もう一つ、死生学についての科目を準備しようとしています。井上先生、井出先生にもお手伝いいただいており、健康とも関係の深い「生と死」の問題を、丁寧に扱っていく予定です。

戸ヶ里 基礎科目『健康と社会』で講師を務めています。私の担当ではありませんが、「首尾一貫感覚」や「ヘルス・リテラシー」についても触れられています。健康情報学の科目も予定しており、健康的に生きるためのヘルス・リテラシーについて15回にわたってかなり幅広く解説するつもりですので、ぜひ身につけていただきたいと思います。

井上 「健康とは何か」という話は突き詰めると 「生きるとは何か」に通底します。本日は健康領域 の私たち4人で話をしましたが、その広がりは生活 領域、福祉領域にも及びます。どうぞ幅広く知識を 深め「生きるとは何か」の思索を深めていただきた いと思います。本日はありがとうございました。

研究室紀要で交流を拡大

教育行政・政策ゼミということから、学生の多くは教 員、校長等の管理職、教育委員会職員等の現職か経 験者です。そのため、2~3カ月毎に開催される論文指 導ゼミでは、各自が取り組む研究テーマが違っても課 題を共有できるため、学生同士で活発な議論が行われ、 各自治体・学校の情報が交換されます。また、修士論 文口述試験には、修了生や修士1年生も出席し学会の 研究報告のような緊張感があります。研究室では、修 士論文等の成果を紀要として発行し、在校生と修了生、 他大学の研究者等との交流も進めています(ゼミホー ムページhttp://ogawazemi.ikvoshi.net/htdocs/

●学生の声●

で紀要を見ることができます)。

ゼミでは、小川先生からの示唆に富むご指導はもと より、ゼミ生からの質問や意見それに伴う議論から多く の「気づき」がありました。学習が思うように進まない自 分にとって、研究に真摯に向き合うゼミ生の存在は、

心理と教育コース・**小川 正人** 人間発達科学プログラム教授



「頑張れ!」と背中を押してくれているようで大きな支え になっています。(川島一秀/2010年度修士修了)

ゼミ生の大半は、教育を前線で担う現職や経験者で、 研究テーマも各自が現場で抱える教育課題に関わるも のが多い。役職や地域は違っても互いに教育を担う立 場から、ゼミでは互いに参考になりそうなヒントや情報も 出されよい刺激の場となっています。調査データの入 手先を紹介しあう等、研究を支えあう連帯感も生まれて います。(藤井幹夫/2009年度修士修了、TA)

見通しと構想の力をつける

小倉ゼミは、経営学と地域経済・まちづくりを主な テーマとするが、その他でも幅広く対応する。学生にさ さやかでも力をつけるため、おもしろく躍動的なゼミを狙 う。このため、定例ゼミでは、毎月出す宿題により、書くこ とを標準化し、モデルを見出す。授業実況中継のDVD 制作、ゼミホームページの開設、大学院ゼミ教育を考え るフォーラムの開催、公開授業と公開講演会の開催、 フィールドワークの実施など多彩な活動を行っている。 ゼミホームページアドレス http://www.ogura-semi.net/ ●学生の声●

小倉ゼミは、私にとって「勝負力」を磨く場である。ゼ ミは月3回開催されており、その内容は多岐にわたる。 たとえば、小倉先生の著書である『論文づくりの方法 論』を用いて全員で読み合わせを行う。毎月の宿題で は、優良回答と自分の回答を見比べ、自分の文章に何 が不足するか考える。これらの訓練は、確実に文章力 を上げる。さらに、フィールドワークは、現場判断力、状

社会と産業コース: **小倉 行雄** 社会経営科学プログラム教授 **小倉 行雄**



況把握力や本質を見きわめる力の獲得に寄与していく。 (M2 坂井孝行)

小倉ゼミの楽しみの一つは、企業や地域の実態をつ かむフィールドワークである。仕事を持ちながら、準備や 事後のレポート作成に時間を割くことは大変である。し かし、行動し、時間をかけることにより、気づきが得られ る。2011年末には、「日本で一番大切にしたい会社」 「いい会社」で知られる伊那食品工業に訪問した。生 きた経営にふれることができた。このようなゼミ活動こそ、 仕事力と論文作成能力の向上につながると実感して いる。(M2 杉山 一郎)

テーマ 「今、放送大学生の私にできること」

放送大学 学生エッセイ コンテスト

エッセイコンテスト実行委員長・同選考委員 河合 明宣社会と産業 教授

学生エッセイコンテストは、2008年、「他の学生がどのような環境で、そしてどのような思いで学んでいるのかを知ることは学生にとって有益ではないか…多くの教職員も、統計数字



だけではなく、学生の実像をもっと知りたいと思って」いることから、「学生の声を伝える場の実現」(『On Air』94号)として、始まりました。以降、毎年行われ、第4回の選考結果と作品について簡単に報告します(選考方法は上記『On Air』)。

テーマは、第1回「学びと私の生活」(応募者数、65人)、2回「学びと出会い」(52人)、3回「放送大学から広がる世界」(84人)と続き、今回は「今、放送大学生の私に出来ること」と決まりました。テーマが抽象的なので「東日本大震災は、想像を絶する被害を生みだしました。貴重な教訓としてさまざまな形で、未来に生かされなければなりません。本学生涯学習の蓄積とそこに生まれた新たな絆から書き上げられたエッセイを募集」と説明を加えました。

応募者37人と、それでも、減少しました。しかし、全作品を読むと、本学での学びから生き方が変わったこと、変わった「私」が外にどういう絆を広げたのかに内容が絞り込まれていました。大震災の被災者の作品と本学で知り合った友を励ます作品は直接震災を扱っています。学びを通して変わった「私」が「今」という日常の営みにおいて、「学びの場」で得た耳を澄ませば聞こえてくるような繋がりを作品にし、震災を間

接的に扱うものと二つに分かれました。

応募総数37人中、女性が12人(32%)、年齢では28歳から85歳まで広がり、60歳代14人次いで40歳代9人と集中がみられました。学部生27人(全科23人;選科2人、科目2人)、修士生10人(全科4人;選科6人)でした。同点が出たため、学部生6人(全科6人)修士生5人(全科2名)と11人が入賞しました。修士生と学部生とを同じ土俵で審査すべきか否かについては、次回の実行委員会に委ねました。

どの作品も学びを、生活の内面へ凝集する「私」と 絆によって全国の学習センターへと広がる「私」に変 えた大事な条件としてしっかりと把握しています。

本学生涯学習の成果は、一つには卒研、課程修 了の必須要件である修士論文により評価しうると思います。また、学位記授与式での謝辞、同窓会会長 祝辞なども指標です。このエッセイコンテストは、それ らに加えたもう一つの確かな指標であると思います。

講評

最優秀賞 「今、放送大学生の私にできること」 埼玉学習センター/松岡美智代さん

心理学の専門研究を続ける療育センターに通所し、自閉症の息子は、日常生活のみならず困った時の対処法までもが可能となった。心理学をもっと学びたくて放送大学に入学した。「学んで」いれば困難と向き合い人間として「幸せに生きる」ことに繋ることを知った。そこに、以前の「私」ではない「私」が「いる」。その「私」は震災で困った多数の発達障害者といっしょに「いる」ことができることである、と結んでいます。高い点数で選ばれました。落ち着いた引きつける文章を是非お読みください。

優秀賞 「三つの健康と生涯学習」 八戸サテライトスペース/稲垣輝紀さん

「今」をどう生きるか。「身体」と「心」と「頭」の三つの健康に心がけている。学部修了に至るまでの学習による「頭のさび落とし」で頭の健康を維持した。修士科目履修まで続けたら、「頭の健康」に留まらず、地域に還元したくなり、「郷土料理を生かした街づくり」を研究テーマとしている。三つの健康維持という入学動機から、知識を地域に還元したいとする学びに転換するプロセスが自然に述べられています。

優秀賞 「今、放送大学生の私にできること」 千葉学習センター/小滝つるゑさん

東北宮城の故郷が津波で被災した。大切な故郷、友からのえがおの種ひまわりを蒔きましょうと便りがあった。花が太陽に向かって開き、次第に元気を取り戻し、センターでの秋祭りを迎えた。合唱の一員として校歌を歌う。歌詞と今の思いが重なり、放送大学で学び続けること、そして「人とのつながりの中で学びをいかすこと」は「私」にはできると確信します。

優秀賞 「学ぶ、そして平和を語りたい」 大阪学習センター/曾我 巌さん

行動することの裏づけが不足しているという思いから退職を機に本学で学習を始めた。知識の体系的な学習により物事の本質が把握できることを実感した。知識を持つことで1歳時に敗戦となった戦争を具

体的に捉えられた。子供や孫に戦争忌避の思いを伝えねばならない。 それには一層の知識の裏付けが必要だ。「今は学習する。これが今 私に出来る事である」と結ばれています。

優秀賞 「『今』の力」 福山サテライトスペース/深川 良さん

私たちは「今」という時間にしか生きることができない。絶えず到来する「今」は履歴として沈殿する。しかし、履歴という個性のかけがえのなさを背景に「今」が在ることは素晴らしく、勉学に勤しめる「今」があ

ることに感謝する。学びへの没頭は、「今」を共に生きる世界との一体である。自分の確認と、共に生きる友への励ましとも受け取れます。 絆で繋がっている「学びの場」の 形成がよく捉えられています。



受賞者	作品名	学習センター
最優秀賞		
松岡美智代	今、放送大学生の私にできること	埼玉
優秀賞		
稲垣輝紀	三つの健康と生涯学習	八戸サテライト
小滝つるゑ	今、放送大学生の私にできること	千葉
曾我 巌	学ぶ、そして平和を語りたい	大阪
深川 良	「今」のカ	福山サテライト
佳作		
尾仲敏郎	学び続けることが「支援の手」	姫路サテライト
菅原真弓	「知」で杭になろう	東京文京
高木順一	人生最後のボランティア	愛知
田中暁子	放送大学での学びとボランティア活動	大阪
西川 巌	自分が放送大学に入学した動機と目標へのチャレンジ	大阪
吉川明彦	おしゃべりのすゝめ	石川

※各賞毎の氏名は50音順です。※学習センターは応募時のものです。

第4回

放送大学 学生エッセイ コンテスト

最優秀賞受賞作品

今、放送大学生の私にできること *****

教養学部 心理と教育コース 松岡 美智代



私には自閉症の息子がいる。彼の存在によって私が 心理学に興味を持ち、放送大学の門戸をたたくことにな ったことは想像にかたくないことと思うが、それによって もたらされる贈り物が他にあったということは、私自身 も予想していなかった。

彼が4才の時広汎性発達障害である自閉性障害と診 断されてから間もなく、普通に接していたのではコミュニ ケーションがとれるようにはならないのだ、ということを 知ることになった。自閉症の子供たちは先天的に脳内の ミラーニューロンがあまり活動しておらず、したがって人 の「真似をする」ということをほとんどしない。普通子ど もたちは大人やお友だちのすることを見よう見まねで遊 びながら同じことをやってみたりしてできるようになり、 結果的に様々なスキルを身につけていくものだ。しかし 自閉症の子ども達にとっては日常生活で何が起きている のかを理解することが難しく、人の真似をすることもほ とんどなく、独自のイマジネーションの世界に閉じこもっ ているのである。その結果ひとりごとを延々としゃべって いたり、周囲の人からは理解できない常同行動(手をヒ ラヒラさせたりくるくる回ったりする) にふけっているの である。

私は専門的に研究を続けているある療育センターに 通所を決め、療育プログラムに沿って家庭でもできるだ けのことをしようと決心した。そして知れば知るほど奥が深い、と感じると同時に、心理学という「学問」をベースにここまで自閉症療育は進んでいるのか、と驚いた。日常生活はもちろん、困った時の対処法もそれによって可能になっていて、学問って本当にすごい、と感じた。息子も「言葉」を習得しはじめ、感情を表現できるようになって、以前からは考えられない程周囲とコミュニケーションがとれる様になっていった。私はもっと学びたくなって、ほどなくして放送大学に入学し、早速心理のコースを選択した。記憶の心理学、ユング心理学、学校教育や生涯学習などについての科目を選択し学び始めた。学び始めて内容の豊かさ、奥深さに触れ、なるほど、学問って本当にすばらしい、と素直に感じ、純粋にがんばろう、と思った。

療育センターに通所前までは、心理を学問として学ぶということは心のメカニズムのようなものを知ることなのかな、あとはどういうことをやるのかな、と漠然と考えていた。しかし始めてみると学ぶということは自己を見つめることであり、人間とは何か、生きるとは何かを深く考えて答えを出す、ということなのだな、と思った。まさに息子が私にくれた贈り物である。(以下略)

全文は放送大学ホームページに掲載しています。 http://www.ouj.ac.jp/hp/o_itiran/2012/240214.html

心理と教育を学ぶために(12)

日本大学准教授 山口 義枝(放送大学客員推教授) 山口 義枝

「放送大学の心理と教育コースに入学しましたが、 どの科目から履修したら良いのでしょうか?」と困ってい る方はいらっしゃいませんか。わたしたちはこの科目を、 教育学、心理学、臨床心理学とはどのようなことを勉強 する学問なのかをお伝えしたいと思い作成いたしまし た。そのために、教育学、心理学、臨床心理学では、人 のどのようなことに関心を向けているのか?研究の仕 方は?3つの学問の共通点と相違点は?等々、全体を







見渡せるように構成しました。また、専任教員全員が担 当講師や教員紹介コーナーゲストとして登場して、心 理と教育コースの教員全員に接することができるよう になっています。教員の美声を聞くだけでは物足りない と思われた方は、ぜひ面接授業にも参加して生の授業 を受けてください。そしてこの科目を入り口として、心理 と教育の学びの世界に深く入ってきてくださることが教 員一同の望みです。

身近な統計('12)

慶應義塾大学大学院教授 渡辺 美智子 放送大学教授 熊原 啓作

新聞、雑誌、テレビなどで毎日のように目にする統計 データはどのように作られ、どう読むべきなのでしょうか。 行政、経営、科学研究などの多くの場面で判断・意志 決定に根拠のある議論が必要とされ、統計データが 活用されています。活用の場面は違ってもデータの 処理や読み取りには共通したものがあります。この講 義ではその統計の初歩から始めて、基本的な概念と 考え方をわかりやすく実際に即して解説しています。 毎回の講義の中に「統計と社会との接点」というコー ナーを設け、実社会で統計がどうのように役立ってい





るかを専門家に語ってもらっています。野球やサッ カーのスポーツデータ、国勢調査、テレビの視聴率、 天気予報、工業製品の品質管理、生命保険、選挙予 測、スパムメールの管理、コンビニの売り上げなど多 岐にわたる話題が取り上げられます。また印刷教材 には表計算ソフトを用いた統計処理のためのDVD を付けています。一人でも多くの方がこの講義によっ て統計の重要性と正しい使い方を学ばれることを期 待いたします。

日本文学概論('12)

放送大学教授 島内 裕子

「日本文学概論」という題名からは、少し堅苦しいイ メージを感じるかもしれませんが、この科目は、1300年 以上にわたる日本文学に即して、文学の根幹を捉え直 すことを目指しています。時代の変化の中で文学の実体 が変容しつつも、なぜ現代まで変わることなく、文学が 人々の心に深く到達してきたのか、その秘密に迫ります。

日本文学の推進力となり、後代の文学にも大きな影響 力を及ぼした文学者たち、たとえば、紀貫之や紫式部、

藤原定家や兼好、芭蕉や上田秋

成、鷗外や露伴や虚子たちに注目してみましょう。すると これらの文学者たちが、それ以前の文学世界を集約し て、最上のエッセンスを抽出し、次の時代の人々にコンパ クトなスタイルで、確実に文学というものの実体を手渡し たことが、明らかになってきます。日本文学の根幹と本質 を、この科目を通してご一緒に考えてみませんか。多くの 皆さんの受講を願っています。

社会のなかの会計('12)

放送大学准教授 齋藤 正章 駒澤大学教授 石川 純治

今日、エコノミストや法律の専門家、さらにはマスコミ などもふくめ、多様な人たちから会計が注目されるよう になってきています。その背景に会計基準のグローバ ル化(国際会計基準の浸透)があり、それにともなう会 計問題が社会経済に大きな影響を及ぼしている点が あげられます。

本講義では、社会のなかの会計を読み解くため、 「歴史」、「理論」、「社会」の3つの軸をとおして講義 を進めます。こうした軸を設定するのも、「教養」という 点に力点があり、いわば「教養としての会計学」、これ



を目指しているからです。したがって、講義の力点は 会計制度の細かな知識や個々の会計基準の解説に おかれるのではなく、大きく変容する現代の会計を歴 史、理論、社会の3つの軸をとおしてトータルに理解す ることにおかれます。

"俗"なる会計の世界も真の意味での「教養」(印刷 教材コラム1参照)とかかわるのだという点を知ってい ただければ、そして社会のなかの会計のトータルな 「理解 |と将来の「予見 |に役立てば幸いです。

現代の生涯学習('12)

放送大学教授 岩永 雅也

人は学ぶ生物です。もちろん、学習自体は他の多く の生物にも見られる行動ですが、自発的に学ぶのは 人だけです。「自発的に」といっても、子どものうちの学 習には社会によって準備され強制されるという側面が あります。しかし、成人、つまり大人の学びの大半は 「はじめる自由 | と「やめる自由 | の保証された全く自 発的な学習、すなわち生涯学習です。この講義では、 私たちが毎日のように接し、自明のことのように思って いる生涯学習をその基本概念から問い直し、人の学



びの現代的意味についてじっくり考えます。そのため、 まずこれまでの人の学習の足跡をたどり、その上で近 代になって登場した成人教育と生涯学習の理念を検 討します。さらに、経済や行政、地域活動、家庭生活と いった現代社会における諸事象と生涯学習との関わ りを考察し、諸外国の生涯学習事情も概観します。要 するに"生涯学習てんこ盛り"の講義です。自らの学び を改めて見直す機会になればと思います。

現代行政学('12)

国際基督教大学教授 西尾 降 (放送大学客員教授)

行政の諸活動は、ゆりかごから墓場、上下水道から 国防まで、社会のあらゆる領域に浸透し、私たちの生 活を支えています。行政はまた政府のアウトプットとし て、正常に機能することが当然視され、障害が現れて 初めてその存在や問題点に気づくことも少なくありま せん。本講義では、行政が日常的に作動するメカニズ ムを理解し、その基礎にある政治・経済・政策・制度に ついての考え方を多面的に学びます。

環境が大きく変動する中で行政の役割は刻々と変 化し、その改革や社会との関係の組換えが世界共通 の課題となっています。不正、ムダ、

非効率の是正をはじめ、市民がいかに行政の舵取り をするかは避けて通れない課題です。また、東日本大 震災からの復興や原発問題への対応も、国と自治体、 国際機関や市民社会との連携を含む行政学のテー マです。

そこで、行政学・政策学の基礎知識を学ぶと同時に、 市民教育の視点から責任ある市民に必要な「教養」 とは何かを考えつつ、共生への道を共に考えていきた いと思います。

産業とデザイン('12)

東京工業大学名誉教授 仙田 満 名古屋工業大学名誉教授 若山 滋

デザインは産業の重要な資源です。私達の国は資源 のない国と言われておりますが、技術とデザインという 知的資源によって世界に貢献していかねばなりません。 デザインは私達の生活のすべてに及んでいますが、そ の重要性については多くの人々に十分理解されてい るとは必ずしもいえません。デザインは表面的、視覚的 な形態だけでなく、物や空間の構成、素材、システムま でも関係します。現代は美しいデザインだけでなく、地 球環境にも、こども達にも、多くの生物達にもやさしいデ





ザインを考えねばならない時代です。近代デザインは 産業革命から産まれたと言われていますが、そのルー ツは地域文化そのものといえます。デザインの歴史、イ ンダストリアル/プロダクト/ファッション/コミュニケー ション/インテリア/都市というような多様な展開、デザ インの現代的課題、そして産業との関連性等、多面的 にデザインについて考え、学んでいきましょう。

データからの知識発見('12)

放送大学准教授 秋光 淳生

情報技術の発展によって、日々大量のデータが生 み出されるようになりました。こうして生成されたデータ は収集され、どんどんと蓄積されています。と同時に、 大量に集積されたデータから有用な情報、知識を取り 出し、それを活用するための技術も発展してきました。 こうした技術の発展によって、私たちの生活は非常に 便利になりました。しかし、その便利さを享受しつつも、 自分で意識しないうちに多くのデータが集められ活用 されることに、人知れず不安を感じているという人もお



られるかも知れません。この科目はデータから意味の ある情報を取り出すための代表的な手法について説 明しています。そして、そうした手法を用いて、実際に コンピュータを用いて計算をするための方法について 紹介しています。この講義を通して、普段情報機器を 利用している上で感じる「なぜ?」が少しでも減り、また 様々な情報技術を納得して利用することができるよう になる、その手助けとなればと思っています。

映像メディアとCGの基礎('12)

施送大学准教授 近藤 智嗣 施送大学准教授 浅井 紀久夫 (ICT活用・遠隔教育センター) 近藤 智嗣 (ICT活用・遠隔教育センター) 浅井 紀久夫

映像とコンピュータグラフィックス(CG)の基礎を学ぶ 科目です。映像がデジタル化されたことによって、映像 に触れる機会が増えただけでなく、動画の投稿サイトな ど、一般の人が映像を制作し公開する機会も増えてい ます。この科目は、こうした映像情報が溢れる現代にお いて、映像制作のエキスパートにならないまでも、映像 表現や映像制作についての基本的な原理や概念を 知ってもらうために開設されました。映像による情報発 信の知識や技術の習得は、現代の大学生にとっても必





要なことと考えられます。本科目の内容は、映像につい ては、動画の原理、シナリオ、撮影、編集など、CGにつ いては、モデリング、質感表現、アニメーションなどを 扱っています。また、近年の映像の表現は、実写映像に CGが合成されることで大きく変わりつつあります。本科 目でも、映像とCGの応用分野として立体視や、映像と CGの合成などもテーマにしています。

2012年度大学院開設改訂科目紹介

教育心理学特論('12)

放送大学教授 三宅 芳雄

教育心理学は人が賢くなる仕組みの理解に基づ いて、人が今よりもっと賢くなるために何ができるのか を明らかにしようとする極めて実践的な学問領域であ る。言い換えれば、人の学びの仕組みを解明し、人の 学びを引き出すための研究分野である。人の現実の 学びはそれを支える十分な経験なしには達成されな い。この教育心理学の講義においても、人の学びの仕 組みの解明を取り上げるうえで、単なる理論の獲得に 終わらず、その複雑で多様な実態の解明に役立つ



「目」を養うための経験を大事にして進めていきたい。 受講生の皆さんにも、自分の経験を持ち込み、経験に 裏付けられた学びを成立させて欲しい。人の学びの 仕組みは学びを引き出す仕掛けとしての教育、さらに 広く学びを取り巻く文化環境と密接に結びついてい る。この意味でも、実証的な実践研究も取り上げ、理 論と実践とがどう結びつけられるかについて考えてい きたい。

臨床心理学研究法特論('12)

放送大学教授 齋藤 高雅 帝京大学大学院准教授 元永 拓郎 (放送大学客員准教授) 元永 拓郎

臨床心理士の仕事は、臨床心理学など心理学の知 識や諸技法を生かして、専門的に対人援助を行うもの です。日本臨床心理士会のホームページをみますと、 臨床心理学による援助の方法として、以下の4つの専 門的技術があげられています。「心理アセスメント」 「心理面接 | 「臨床心理的地域援助 | 「研究活動 | で す。本科目は、このうち「研究活動」の基礎的方法論を 講じたものです。既に現場で心理臨床の実践をしてい る人々や、これから臨床心理学的研究に向かおうとす



る人々に対して役立つことを意図して作成しました。放 送大学大学院臨床心理学プログラムは、(財)日本臨 床心理士資格認定協会が指定する大学院の第2種 指定校ですので、その要請に沿って研究活動が可能 となるように基本的な事柄を論じています。今回の改 訂版('12)は前書('06)の考え方を踏襲しながら、高齢 者研究など時代の要請に応じた課題をも取り上げて います。

データベースと情報管理('12)

放送大学教授 三輪 眞木子 放送大学准教授 柳沼 良知 (ICT活用·遠隔教育センター)

情報管理とは、情報の生産、獲得、組織化、蓄積、 検索で構成される情報プロセスを効率的・効果的に 管理する手法である。データベースとは、特定のテー マや形態のデータを収集して組織化し、蓄積、検索す る仕組みである。この授業では、データベースによる情 報管理に焦点を当てて、文献、画像、映像、三次元 データを含む様々な形態の情報オブジェクトを管理す るデータベースの構築技術と運用手法を取り上げる。 各回の講義は、5名の講師が分担し、様々なタイプの





データベースを構築・運用した経験を踏まえて、それ ぞれの専門領域を中心に、現在の技術を紹介するだ けでなく、研究開発の課題も取り上げる。この授業の 受講を通して、データベースと情報管理に関する最新 の知識を得た受講者が、情報社会から知識社会へ の変化に寄与するような新たな研究開発の課題を発 見し、それに取り組むことを期待している。

学 꽘 だ セ ょ

岐阜学習センター開設20周年記念事業を終えて

20周年記念講演

平成23年度は、岐阜学習センターが開設20周年 を迎え、1年間を通していろいろな行事に取り組ん できました。最初は6月4日に20周年記念式典を行 い、二宮皓・放送大学副学長に放送大学を代表して 挨拶をしていただき、石弘光・前放送大学長には 「財政破綻は回避できるか?」と題して講演をして いただきました。翌日は二人の先生に高山市まで出 かけていただき、高山市において國島芳明・高山市 長を迎えて岐阜と類似の記念式典と講演を実施しま した。二宮先生と石先生には2日間にわたって式典 及び懇親会に参加していただき大変感謝しています。



岐阜学習センター開設20周年記念式典

この式典を 皮切りにし て講演会を 次々と行っ てきました。 その中で、 岐阜県が輩 出した二人 の人間国宝

の先生に講演を依頼したところ、快く講演を引き受 けてくださいましたことが強く印象に残っています。 10月23日には、人間国宝の土屋順紀先生(紋紗・ 保持者)による「私の『染・織』の道」と題した講 演が行われ、11月5日には、瀬戸黒で人間国宝とな られた加藤孝造先生に「人間国宝加藤孝造一美濃焼 に生きる一」と題して、榎本徹・現代陶芸美術館館 長との対談を行ってもらいました。

以上の講演以外に、森秀 樹・岐阜大学長、髙崎絹 子・放送大学客員教授、熊 坂賢治・ソフトピアジャパ ン理事長、放送大学の学生、 客員教授及び所長による講 演を毎月のように行いまし



土屋順紀先生講演会

た。いずれも特色があり、説得力のある講演でした。 また、記念事業の一環として面接授業を初めて

高山市で実 施すること ができまし た。講師は 私が務めま したが、多 くの学生と



楽しく授業を進めることができました。

学生実行委員会の活動と発展

20周年記念事業を進めるに は、学生の皆さんの協力が必 要であると考え、学生有志に よる学生実行委員会を構成し ました。記念誌の発行に当 たっては、学生実行委員会が



中心となって資料の収集・編集を行い立派な記念誌 ができました。ただし、この記念誌を編集している ときに東日本大震災が発生したので、学生が話し合 い、今回の記念誌はモノクロで印刷することになり ました。

学生実行委員会のメンバーはいずれも熱心な方ば かりで、岐阜学習センターの職員にとってはとても 心強い存在になりました。学生実行委員会と職員と の話し合いが頻繁に行われるようになり、学生の皆 さんからの意見・要望を幅広く聴くことができるよ うになりました。このような経緯の中で、20周年記 念事業の学生実行委員会が解散しても学生と職員と の接点を強めるため、新たに学生ナビゲーター制度 を取り入れることになりました。現在、学生ナビ ゲーターは放送大学の学生確保のための広報活動や、 学生相互の支援活動を積極的に行っています。

岐阜学習センター

岐阜県岐阜市薮田南5-14-53(ふれあい福寿会館第2棟2階) 〒500-8384 JR岐阜駅、名鉄岐阜駅から岐阜バスで約20分 電話:058-273-9614

「自然との共生」へ学生とスクラム一鳥取学習センタ

「鳥取」というと「どこ?」「鳥取と島根どっち が東?」、さらには「取鳥」と書かれることも…。 連想するものは「鳥取砂丘」「大山」「二十世紀 梨」「三朝温泉」などですが、最近は「マンガ」で す。ゲゲゲの鬼太郎の「水木しげるロード」(境港 市)、名探偵コナンの里「青山剛昌ふるさと館」(北 栄町) など、連日多くの家族連れでにぎわっていま す。また、某社のコマーシャルで、「ハワイ(羽 合) 」「鳥取砂丘で糸電話」が話題になりました。

学

習

鳥取学習センターは、IR鳥取駅南口を出て徒歩5 分の鳥取市役所駅南庁舎の5階にあります。また、 学習センターのある市街地から車で10分程走ると、 緑の山と白い砂と青い海が広がる大自然、さらに 2010年世界ジオパークネットワークに認定された 「山陰海岸ジオパーク」のすばらしい景観に出会え ます。

自然を活用した面接授業



鳥取学習セン ターではセンター の外へ出かけてい く面接授業を多く 試みています。中 でも健康科学専門 の加藤敏明客員教 員による「自然の

中を歩く」シリーズでは、山陰海岸ジオパーク探勝 路、三徳山三仏寺の修験道などを歩き、多くの方か ら是非また参加したいと感想をいただきました。



サークル活動と学生講演会

全国で一番小さいセンターですが、いくつかの サークル活動があります。「書に親しむ会」は書を 習うのではなくそれぞれが楽しもうという趣旨で始 まり、初心者である私も参加して楽しんでいます。 「ノルディック・ウォークの会」では、健康増進の ため時間を有効に活用して歩いています。中でもユ ニークだと自負しているサークルが「ジオ部」です。 「山陰海岸ジオパーク」からのネーミングですが、 「ジオ」は地球・大地を表します。山陰の豊かな自 然を楽しく学ぶことと社会貢献を心がけているサー クルです。昨年12月には兵庫県新温泉町の湯村温 泉・荒湯で、約98度で湧出する温泉水と川の水との 温度差を利用した「温度差発電」の実験を行い、見 事成功。今後の活動も期待しています。

b

また、学生の皆さんが追求している課題について 発表する「学生講演会」があります。平成21年秋の 初回は、88歳の学生さんが「シベリア抑留ものがた り」と題して、自身の体験をもとに資料を駆使した レベルの高い講演をされました。その後「野菜のキ ホン | 、「ジオエネルギーの活用 | などの研究成果

が発表され ています。

鳥取学習 センターは、 学生の皆様 とともに 「楽しみな がら学ぶし 環境づくり を目指して おります。



ジオエネルギーの活路開けり

日本海新聞平成23年12月16日掲載

鳥取学習センタ-

鳥取市富安2-138-4 (鳥取市役所駅南庁舎5階) 〒680-0845 JR鳥取駅徒歩5分 電話:0857-37-2351

就任のごあいさつ

就任のごあいさつ

生活と福祉 教授 田城 孝雄

平成9年東京大学附属病院に、国立大学附属病院として初めての総合医療連携部門(医療社会福祉部)を立ち上げ、以降、地域の保健・医療・介護・福祉のネットワーク作りに取り組んでいます。放送大学は、全国津々浦々に学生さんが居て、直接語りかけることが出来るので、生涯教育として、保健・医療・介護・福祉に関する事項について、教育、啓発、情報提供することにより、これらの課題・問題を、自分自身の頭で、理性的、合理的に考え、自律的に行動できる市民・国民・専門職を育成し、急速な社会の高齢化による介護の問題や、地域の医療崩壊の危機を乗り越えることが出来るように貢献したいと考えております。



はじめまして

心理と教育教授 小川 俊樹 臨床心理学プログラム 小川 俊樹

平成24年度から「心理と教育コース」の一員となりました、小川俊樹です。専門は臨床心理学、特に投影法を研究テーマとしております。一般には、インクのしみ検査といった方がよくわかっていただけるかもしれません。投影法は認知や発達の問題も関係していて、たかがインクのしみと侮れないアセスメント技法です。前任校で社会人を対象とした大学院教育に関わったことがありますが、通信による教育は初めての体験です。これから面接授業や通信を通して、受講生の熱意に応えられるよう、努めていきたいと思います。



地球環境時代の都市・街・建築!

社会と産業 教授 梅干野 晁社会経営科学プログラム 梅干野 晁

ほやのあきらと申します。専門は、都市・建築環境工学、環境設計・計画です。環境負荷の小さい快適な街づくりを目指して、光・熱・空気・水環境などを中心に生活環境に関する研究を行っています。

放送大学では、1982年、大学放送教育実験番組テレビ大学講座として、恩師清家清先生の「住居論」を1回分担当させていただいたのがはじまりで、その後、東京工業大学在職中、「住まいと環境」や「住まいの環境学」などを客員として担当しました。早速、都市・街・建築の環境とエネルギーをテーマに教材づくりに取りかかっています。ヒートアイランド現象や、都市・建築緑化、自然エネルギー利用等について議論しましょう。



メディアミックスを求めて

社会と産業 教授 御厨 貴

テレビ番組を作り、スクーリングをやる。この二点を行うべく放送大学にお邪魔しました。実はこの10年、客員として番組作りに関わってきました。これからは「権力の館」「アーカイブス」「公共政策」「天皇と近代」をテーマにした番組を作りたく、胸をときめかせています。さらに広く「政治史学」の視点からこの国の政治社会のあり方を捉える試みを行うつもりです。放送大学に止まらず、その枠を越えて、他の媒体と連携をとることによって、文字通りメディアミックスを実現することができれば本望です。視聴覚資料の収集と活用も、可能な限り進めたいものです。



サイエンスを学んで人生を豊かに

自然と環境 教授 岸根 順一郎

三十手前まで東京都立川市で育ち、その後愛知県岡崎市で6年、ボストンで1年、北九州市で8年半を過ごした後、幕張に落ち着きました。東奔西走です。専門は理論物理(物性理論)です。物質内部で七変化する電子の挙動に魅せられ、超伝導や磁性といった「電子の社会現象」を中心に研究してきました。

放送大学では、人類と自然の共生を暖かく見守り包むような自然科学のありかたも模索したいと思っています。趣味はアマチュア天文活動(長らく休眠中)とオペラ合唱です(現在はアイーダ公演の特訓中)。皆さんとの出会いを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いします。



手紙

自然と環境 准教授 大森 聡一自然環境科学プログラム 大森 聡一

4月に放送大学に着任しました大森聡一です。早稲田大学地学専修、資源及材料工学専攻、東京工業大学地球惑星科学専攻を経て、主に地質学・岩石学的手法により、地球が生命の住む惑星になった理由を研究しています。「雪は天からの手紙」(中谷宇吉郎)「ダイヤモンドは地下からの手紙」(F.C. Frank)と、人の手の届かない領域の情報を記録した物質は「手紙」にたとえられて来ました。先人のたとえをなぞると、私の研究している岩石は、過去に埋められた暗号の手紙です。放送大学の教育と研究を通して、みなさんと、その解読の難しさと楽しさを共有し、いろいろ議論したいと思います。よろしくお願いいたします。



2013(平成25)年度から学部に情報コース、大学院に情報学プログラムが設置されます

放送大学では、人々の生涯学習の充実を目指して、学部(教養学部)に5つのコース、大学院(文化科学研究科)に6つのプログラムを設けて教養教育の提供に当たってきましたが、このたび2013(平成25)年度から、新たに学部に情報コース及び大学院に情報学プログラムを設置することにいたしました。また、文化情報学プログラムは人文学プログラムに名称を改めます。

学部(教養学部)

2012(平成24)年度入学者まで

2012(十成24) 牛皮八子有より		
生活と福祉		
心理と教育	١,	
社会と産業		
人間と文化		
自然と環境		
	生活と福祉 心理と教育 社会と産業 人間と文化	

2013(平成25)年度入学者から

6 コース	生活と福祉
	心理と教育
	社会と産業
	人間と文化
	情報
	自然と環境

- (1)2013年度以降に入学する学生は 1年次入学、2年次及び3年次編 入学を問わず、全て新しいコースの 所属となります。
- (2)2012年度以前に入学した学生の うち希望者は所定の申請をすること で情報コースへ移行することができ ます。

大学院(文化科学研究科)

2012(平成24)年度入学者まで

6プログラム	プログラム	募集人員
	生活健康科学	90名程度
	人間発達科学	60名程度
	臨床心理学	40名程度
	社会経営科学	120名程度
Д	文化情報学	120名程度
	自然環境科学	70名程度
	슴 計	500名

2013(平成25)年度入学者から

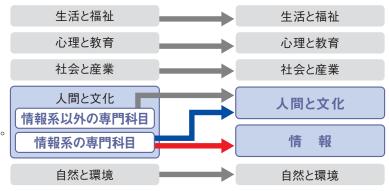
0(1成20) 平皮八子旬	
プログラム	募集人員
生活健康科学	90名程度
人間発達科学	60名程度
臨床心理学	30名程度
社会経営科学	100名程度
人文学	90名程度
情報学	70名程度
自然環境科学	60名程度
合 計	500名
	プログラム 生活健康科学 人間発達科学 臨床心理学 社会経営科学 人文学 情報学 自然環境科学

- (1)2013年度以降に入学する学生は 新しいプログラムの所属となります。
- (2)2012年度以前に入学した学生は 従前のプログラムのまま変更ありま せん。
- (3)修士全科生の各プログラムの募集 人員は2013年度入学者より変更 となります。

情報コース設置に伴う科目の読み替えについて

2013年度以降に情報コースに入学または所属変更する学生は、2012年度以前に人間と文化コースの情報系の専門科目を科目登録し、修得した場合は、
のとおり情報コースの専門科目となります。

また、2013年度以降に情報コース以外に入学または 所属する学生が、2012年度以前に人間と文化コース の情報系の専門科目を科目登録し、修得した場合は → のとおり人間と文化コースの専門科目となります。



学部・大学院の再編成については今後も随時お知らせしていきます。



電子ブックを使ってみませんか

附属図書館

放送大学では、電子ブック約36,000タイトル(和書約3,500点/洋書約32,500点) の提供を開始しました。これらは、本部図書館や学習センターのパソコンで読むほか、インターネットに接続したパソコンを使って、ご自宅からも利用できます。利用方法は http://lib.ouj.ac.jp/search/e-book.html をご覧ください。学習・研究の参考図書として、どうぞご活用ください。





教養学部学生及び大学院修士選科生・修士科目生 募集

広報課・学生課

2012年度第2学期の学生募集を以下のとおり行います。

出願期間	2012年6月15日(金)~2012年8月31日(金)
合否通知等	2012年6月下旬~2012年9月中旬
学費の納入	2012年6月中旬~2012年9月末
入学許可通知	2012年7月上旬~2012年9月末
印刷教材等の配送	2012年8月下旬~2012年9月末
授業開始	2012年10月1日(月)

- ・放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方にも、 この機会にぜひ本学についてご紹介くださり、入学をお薦め いただくようお願い申しあげます。
- また、2012年9月末をもって学籍が切れる学生の方で、2012年度第2学期以降も引続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要となりますが、入学料が割引になります。
- ・インターネット出願は2012年6月1日(金)~2012年8月 31日(金)までです。
- ·出願締切日は2012年8月31日(金)<必着>です。

大学院修士全科生 募集

教務課

放送大学大学院では、2013年度修士全科生の学生募集を以下のとおり行います。

出願期間	2012年8月17日(金)~2012年8月31日(金) 18:00(必着)
第一次選考(筆記試験)	2012年10月7日(日)
第一次選考合否通知	2012年11月2日(金)発送
第二次選考 (面接試問)	2012年11月24日(土)または2012年11月25日(日)
合否通知等	2012年12月14日(金)発送
学費の納入	2013年3月上旬~2013年3月中旬
入学許可書・印刷教材等の配送	2013年3月中旬~2013年3月下旬
2012年度授業開始	2013年4月1日(月)

- ・修士全科生は、修士課程を修了して、学位「修士(学術)」 の取得を目指す学生です。
- ・大学卒業(卒業見込みを含む)の方またはこれと同等 以上の学力があると認められた方※が出願できます。 ※本学が行う出願資格事前審査で認められることが 必要です。申請期間は、2012年7月20日(金)~8月 2日(木)です。詳細は募集要項をご覧ください。
- ·募集人員は500名で、入学者選考に合格した方が、 入学できます。
- ・入学希望者ガイダンスを開催します。詳細はHPをで参照ください。

http://www.ouj.ac.jp/hp/gakuin/gakuin14.html



Open Forum (大学院教育研究成果報告)第8号について

教務誤

このたびOpen Forum第8号を発行しました。本書は大学院修士課程2010年度修了生の修士論文を基にした論文集です。各学習センターにて閲覧できますので、修士全科生の研究成果に興味のある方はご覧ください。また、各学習センター・本部(郵送のみ)において、販売も行っています。通常価格800円(本学学生価格640円)となります。お問い合せは本部、各学習センターまたは本学ホームページをご参照ください。



編集後記

トップ記事にあるように、去る3月24日に、2011年度の学位記授与式がNHKホールで盛大に挙行された。本学は学士(教養)と、修士(学術)を授与しているわけだが、なんと日本の諸大学における学士学位において、法律によって括弧内に記す分野名は700種類を越えているという。その内、約半数は以下に記す14個のキーワード(文化、国際、環境、人間、デザイン、コミュニケーション、経営、地域、政策、情報、医療、福祉、健康、スポーツ)のどれかを含んでいる。本学の専門科目や面接授業においては、それらのほとんどが存在しているが、それは本学がいかに現代的な多様性に満ちているかを如実に語っている。この多様性を誇りにして、本学はまさしく高度な教養教育の殿堂であると言えるだろう。(前年度編集委員・松本忠夫)

前号(105号)の誤字のお詫びと訂正

105号のコース座談会に、誤りがありました。6ページ23行目の濱田教授発言部分で、「カルシウム 40」と印刷されておりましたが、正しくは「カリウム40」です。お詫びして訂正いたします。

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp

放送大学通信 オン・エア 編集委員(2012年度)

 委員長
 教授 島內 裕子

 副委員長
 教授 高木 保興

 委員
 副学長 吉田 光男

 教授
 井上
 洋士

 教授
 米谷
 民明

准教授 岡崎 友典 准教授 秋光 淳生 准教授 柳沼 良知

編集事務担当 総務部広報課

